かまくらの不思議を歩こう ㊲

桜山のパワー地図

大貫昭彦

＊六代御前最期の地　桜山は逗子市と葉山町の境にある山並みです。桜の木が多いことから名がついたといわれます。この桜を瑞泉寺の開山の夢窓疎石禅師が吉野に移したのが一目千本桜になったという話があります。桜山に並行して鎌倉の内と外を分ける田越川が流れています。川沿いには処刑場跡がいくつもあります。平家の直系最後の人といわれる六代御前もここで命を絶たれました。六代は、平家繁栄の扉を開いた清盛の祖父正盛から数えて6代目の人で、一度は頼朝の恩情で生き延びましたが、頼朝が亡くなるとこのほとりで処刑されました。26歳の頃といわれます。

＊お墓の爽快感　墓は田越橋を渡って右へ4、5分行った所にあります。まず目を奪うのは、石垣の上の大ケヤキです。墓は、この木に抱かれるように立っています。

大根会一行も、急な石段に息を切らして墓を目指しました。しかし、反応は一様にさわやかでした。石段の途中で、「風の香りがいい。新緑の季節ではないのに、緑の匂いがする」など、上るにつれて爽快感が増すようです。音がしたという人もいます。霊域の結界を示す音のようです。

＊六代御前のパワー　上りきると、逗子一望の景色が広がります。逗子湾、その向こうに小坪、披露山、久木、池子の丘陵が巡り、息を切らした苦労は十分に報われます。いつも霊感の鋭い30代の女性は、お墓の前のエネルギーが一番強く、気分もよくなると満足気でした。会の皆さん譲り合いながらスポットで手を合わせました。

＊大根師の感想　リーダーの大根師は「処刑された人のお墓なのに穏やかな雰囲気に包まれているのが不思議だ」と首を傾げ、続けて「六代御前は怨みを持っていないようだ。一族の滅亡を受け入れたのだろう。僧侶でもあったから、長く引きずることをしなかったのではないか。おかげで平家は、今も繁栄しているね」と、自ら納得した様子でした。

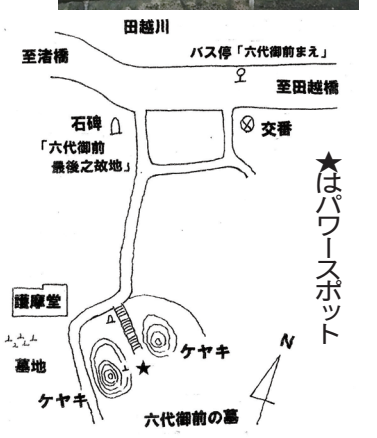
＊桜山山之神社（やまのかみしゃ）　六代のお参りを済ませて、桜山之神社に向かいました。田越橋、石渡家の前を過ぎると、宗泰寺があります。鎌倉の円応寺の像に似た閻魔十王を祀るお寺として知られています。山之神社は、境内右手の高台にあります。

山之神社は山村の神ですが、柳田國男説によると、初めは地元の英雄の霊と降臨した天津神を祀る神社だったようです。人は安全と豊作、繁栄発展を神宿る山に祈っていた。しかし、林業と農業が分業化されると、神は山と平野に分かれることになった。

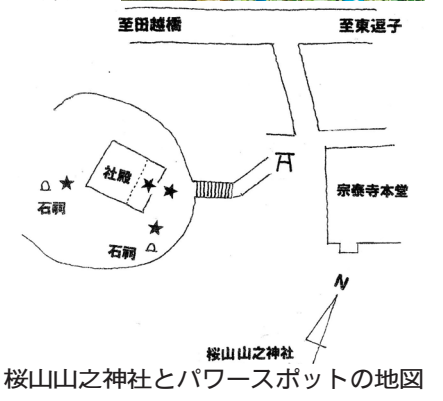
山之神社の50～60m東に子之神社があります。子はねずみ、大黒天のお使い。主として農業や商業の福神です。昔、石渡家の向かいは船着場だったそうです。桜山でも山の神が山仕事、子の神が農業や漁業、運輸業などを守ってきたのでしょう。

＊桜山の伊勢神宮　山之神社はパワーも強く、大根会の皆さんが示したのは4箇所でした。社殿前の2カ所、社殿に向かって左の石祠と社殿裏の石祠の2カ所です。

この社に祀られている神の名ははっきりしませんが、大根師は左の祠はアメノウズメノミコト、裏の祠はアマテラスオオミカミに違いないと言われました。するとこの社は、伊勢神宮でもあり、桜山の優れた先祖神を祭る社でもあると考えられます。



六代御前墓とパワースポットの地図



桜山山之神社とパワースポットの地図

コロナ対策基金に10万円

観光協会が納涼うちわ収益金を寄付

鎌倉市観光協会（大森道明会長）が8月28日鎌倉市役所を訪れ、納涼うちわの収益金から10万円を寄付した＝写真。

同観光協会が、今年の納涼うちわの裏面に建長寺派管長・吉田正道さんが揮毫した特別仕様を1本500円で1200本販売した。1200本は完売している。

うちわは、洋画家・濱岡朝子さんが「花づくし」の題で描いた色鮮やかな夏の花の裏面に吉田管長が「無限清風」と書いた。「建長寺の門は全ての人に開き放たれ、限り無い清風が吹き来って尽きることはないという意味」という。7月の豪雨で被害をうけた熊本県人吉市にも100本届けている。

建長寺 親と子の朗読会800回

コロナ禍で静かに開催

800回記念の「建長寺 親と子の土曜朗読会」が9月12日、北鎌倉の建長寺で行われ、約50人が参加した＝写真。NPO法人「日本語の美しさを伝える会」（伊藤玄二郎理事長）が、建長寺の協力で2005年から毎週土曜日に行っている朗読会で、今年は新型コロナウイルスの影響で3月から6月まで休会し、7月から再開した。

小田さんの朗読

800回記念朗読会のメンバー

節目に「自作を語る」という企画でこれまでやなせたかしさん、井上ひさしさん、角野栄子さんらの作家をゲストに迎え、交流している。

今回は5歳のときからこの会に参加したという若林真実さん（高校1年）、音楽家・倉本洋子さん、古事記朗誦家・大小田さくら子さんが歌詞や、ヴェルレーヌの詩などのほか、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」を朗読した。コロナ禍のなかでの開催とあって、人数制限をして広間に間隔をとって着席、時間も1時間に限定された。参加者は静かに朗読に聞き入った。

若林さんは「心をこめて読めるよう練習した。朗読のおかげで本が好きになった」と話していた。

朗読後、伊藤理事長は、芥川が鎌倉で新婚時代に「蜘蛛の糸」を書いたことを解説し、「最低100回はと思っていたが、いつのまにか800回。千回まで行くだろうか。一回一回を着実に行っていきたい」と会の成長ぶりに目を細めた。

ぬり絵でぼんぼり祭

浄光明寺山門で地元住民ら

「ぬり絵でぼんぼり祭」が8月29、30の両日浄光明寺山門前で行われた＝写真。

夏休みの子どもたちを楽しませようと鎌倉市扇ガ谷の泉ガ谷自治会主催で18年ほど前から行われている。例年たくさんのぼんぼりが門前に並び、夕方になると灯りが灯され、露店もでて、近所の人たちが夕涼みがてら訪れる。

今年は、コロナ禍で密をさけるため、ぼんぼりの掲揚はひかえ、浄光明寺の大三輪龍哉住職と地元の墨彩画家・西松凌波さんの2点のみが山門に飾られた。自治会役員のアイデアで13㎝×18㎝の紙に「あまびえ」を画いたぬり絵を町内に配ったところ、25点集まり、それをラミネート加工して、山門周辺にぶら下げた。同会の加藤佐紀子会長は、「久しぶりに色鉛筆を使った。色を考えるのが楽しいと大人にも案外好評だった」と話す。

大三輪住職（右）と西松さんのぼんぼり

強い日差しの下、秋の訪れを感じさせる風が山門を吹き抜け、蝉しぐれと風鈴の音が混ざり合うなか、訪れた人たちは静かにぼんぼりとぬり絵をながめていた。

大三輪住職は「継続できてよかったけれど、早くもとのにぎわいがもどってほしい」と語った。

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ 茅木家
☎（22）1460

大箭晃義写真集
新刊 相州鎌倉 椿百景
既刊 苔に光る 鎌倉の石仏
定価：3,520円　発行：銀の鈴社 ☎0467-61-1930　定価：2,200円

鎌倉大町歯科
KAMAKURA OMACHI DENTAL
歯科・矯正歯科
（各種保険取扱／初診　急患随時受付）
鎌倉市大町4−1−7
（木曜、日曜、祝日休診）☎0467-81-4488
http://www.kamakura.dental/index.html

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081（代）
http://www.tenkundo.co.jp/

鎌倉といえば・・・
鳩サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp